

2025 年度

SGT 活動レポート

農業体験講座 第1回 棚田ツアー

4月19日(土)に第1回農業体験講座を、静岡市の清沢にある棚田で実施しました。中学生と高校生を合わせて29名が参加しました。

最初に、この棚田を運営している清沢塾の塾長の多田潤治様からお話を頂きました。この棚田は今から236年前に作られたものであるとのことでした。236年前と言えば、江戸時代の寛政年間です。寛政年間と言えば、NHKの大河ドラマ『べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜』の主人公である蔦屋重三郎が曲亭馬琴や喜多川歌麿、葛飾北斎などを作品刊行にかかわった時代でもあります。そんな歴史ある棚田ですが、戦後は『緑の革命』による大型農業機器の導入や農薬の使用で大量生産が進むと同時に日本政府の減反政策による米農家の衰退から大型農機具が使えない不便な立地にある棚田はうち捨てられてしまったそうです。こうして荒廃してしまった棚田ですが、今から25年前に静岡大学副学長で育種学の研究者であった中井弘和教授の呼びかけでそれまで使われていなかった棚田の再生のために静岡大学の学生の力を借りて自然農法による稲の栽培を始めたことがきっかけでこの棚田が復活したとのことでした。現在、清沢塾が管理するこの棚田では色々な種類のお米(「旭」「神秘」「みどり米」「びっくりもち」「借錢切」の5種類)を、化学肥料を使わずに無農薬で育てていることや、これにより田んぼの中には様々な生き物が生きていて共生していることもお話しされました。一方で、ハチやヒルなどの危険な生き物もいることや、農作業で使用する刃物を使う際には十分に気をつけて使うなど、安全面での注意点も受けました。

最初に棚田の自然を知るため、あずまひきがえるのおたまじゃくしの観察をしました。棚田には8種類の蛙がいるそうで成長すると森に帰っていくそうです。種籾を育苗箱に蒔く作業を先週の週末に終わらせていたので、午前中は高校生10名が15段目の田の整地作業に残りの9名が棚田に水を引くための取水口と取水口近くの泥を溜めるためのプールの掃除を行いました。大雨や台風の後、この取水口やプールが泥や落ち葉で詰まってしまうことから年4回程掃除をするそうです。中学生は、最初にビニールで覆われた育苗箱に水やりをし、その後、今年から再び田んぼとして使う16段目の田の整地作業と石垣に生えた草木を鎌で刈り取りました。お昼は木陰で食べました。今年も野菜がたっぷり入ったみそ汁の差し入れがありました。自然を眺めながらの食事は、食欲増進にもつながるようで5杯もお代わりした生徒がいました。午後は、高校生9名が取水口からパイプを通して流れてくる冷たい山水を一旦暖めるためのプールの泥かきをし、残りの10名が中学生と一緒に16段目の田の整地作業に取り組みました。特に中学生はより効率的なやり方を自分たちで模索しながら作業に取り組み、土で手や服が汚れることを気にすることなく、皆真剣に作業をしていました。1日作業をして、生徒たちは達成感のある表情をしていました。

体験を通じて、農作業には様々な作業があることを学びました。次回は5月24日(土)です。



あずまひきがえるのおたまじゃくしを観察しています。



種籾を蒔かれた有機土の上にさらに有機土を撒いています。厚さが均等になるようにしないと発芽のしやすさに差が出るそう



取水口に詰まった泥や枯れ葉を取り除き、棚田へと山水を送ります。



取水口近く泥や落ち葉を溜めるプールの泥を除去しています。



15段目の棚田を整地しています。しばらく使っていないと土が固くなります。



昼食です。今年も野菜が沢山入った具沢山のお味噌汁をいただきました。



16段目の棚田の整備をしています。石組みがきれいになりました。



16段目の棚田の上にあるプールの泥のかき出し作業をしています。